

令和7年度第1回仙台市天文台運営協議会議事録

1 開催日

令和7年7月28日（火）

2 開会及び閉会の時刻

14時00分開会、15時30分閉会

3 開催場所

仙台市天文台1階 加藤・小坂ホール

4 出席者

委員

秋山正幸会長、西山正吾副会長、飯野正義委員、岩間友希委員、黒柳あずみ委員、西海枝恵委員、田村恵子委員、中尾優美子委員、山口裕之委員、湯蓋典子委員

事務局

仙台市教育局 生涯学習課長 小幡 拓

生涯学習課施設係 係長 岡本 俊宏

施設係 主査 高橋 薫

施設係 総括主任 石川 和浩

説明員

天文台長 小野寺 正己

天文台副台長 運営マネージャー 大江 宏典

5 会議次第

1 開 会

2 委員紹介

3 職員紹介

4 報告事項

- (1) 仙台市天文台運営協議会の設置趣旨について
- (2) 令和6年度（2024年度）天文台事業実績について
- (3) 仙台市天文台中期計画の評価報告（2024年度）について
- (4) 令和7年度（2025年度）天文台事業計画について

(5) 本協議会での意見に関する対応状況について

5 その他

6 閉会

6 議事の概要

○開会

ただいまより、令和7年度第1回仙台市天文台運営協議会を開会する。

開会に先立ち、委員の改選について報告する。所属団体の役員改選に伴い、千葉委員が退任となったため、その後任として、湯蓋典子委員が新たに委嘱されている。湯蓋委員の机上に委嘱状を配布しているので、ご確認願いたい。

なお、湯蓋委員の任期については、仙台市天文台運営協議会設置要綱第4条の規定に基づき、前任者の残任期間である令和8年3月31日までとなる。湯蓋委員には、後ほど委員紹介の際にご挨拶をいただきたい。

本協議会は、「仙台市天文台運営協議会設置要綱」設置要綱第6条第2項の規定に基づき、会議の開催にあたり委員の過半数の出席が必要となっている。本日は委員10名全員が出席しており、有効な会議として成立していることを報告する。

次に、本日の会議資料を確認する。

【会議資料】

- 会議次第
- 資料1 仙台市天文台運営協議会設置要綱
- 資料2 天文台運営協議会委員名簿
- 資料3-1 年報No.17 (2024年度)
- 資料3-2 施設利用者の入館状況
- 資料3-3 施設利用者の入館状況 (グラフ)
- 資料4 2024年度天文台中期計画の評価報告
- 資料5 仙台市天文台2025年度事業計画書
- 資料6 本協議会での意見に関する対応状況について
- ソラリスト (Vol.66、2025年夏号)
- 研究紀要 第11号 (2024年度)

○委員紹介

事務局 天文台運営協議会の委員任期は2年間となっており、現在は第8期の2年目となる。本日は、令和7年度の第1回目の会議であり、一人1分程度で

改めて自己紹介をお願いしたい。秋山会長より時計回りの順番でお願いしたい。

各委員 （自己紹介）

※秋山会長→西山副会長→田村委員→中尾委員→山口委員→湯蓋委員→飯野委員→岩間委員→黒柳委員→西海枝委員 の順番で実施

○職員紹介

事務局 生涯学習課長より、事務局側の出席者を紹介。

○報告事項

事務局 それでは議事に入る。本協議会は原則公開となっているが、本日の傍聴者はいないことを報告する。ここから議事進行は、本協議会設置要綱第6条の規定により、会長が務めることとなっているため、秋山会長にお願いする。

会長 では、ここから私が議事進行を務める。円滑な議事運営にご協力願いたい。まず、会議の議事録署名委員を指名する。議事録には、会長である私の署名のほか、もう1名の委員の署名が必要である。前回は飯野委員にお願いしたため、今回は名簿順により、岩間委員にお願いしたいがいかがか。

岩間委員 了承。

(1) 仙台市天文台運営協議会の設置趣旨について

事務局 資料1をご覧いただきたい。本協議会は、本市と仙台市天文台運営事業者が締結する仙台市天文台の運営に関する契約書の第9条に基づき設置しており、資料1の「仙台市天文台運営協議会設置要綱」第1条により、「天文台の運営方針や利用者のニーズの変化に伴う事業内容の変更等について、本市に対し意見を述べる機関」とされている。委員の皆様には、このことに改めてご留意のうえ、天文台運営事業の向上のため、忌憚のない意見を頂戴したいと考えているので、よろしく願いたい。

会長 今の説明について、質問・意見等はあるか。

各委員 特に無し。

会長 意見が無ければ、報告事項(1)は終了とする。

(2) 令和6年度(2024年度)天文台事業実績について

事務局 本件については、天文台運営事業者より説明する。

大江副台長 では、資料 3-1 年報No.17 に基づき説明する。26 ページをご覧ください。天文台では、毎年来館者にアンケートを実施しており、「NPS (Net Promoter Score)」という評価方法を採用しており、令和 6 年度の NPS スコアは 47.4% で、過去最高の推奨度となった。国内における民間企業でも 40%を超えるスコアは高評価とされており、非常に良好な結果と考えている。資料の 27 ページ以降に記載の基本集計については、前年度との比較で顕著な変化が見られた項目のみ報告する。28 ページの来館動機に関して、SNS や Web サイト等を通じて来館された方が約 35%を占め、近年の傾向として定着しつつあることを確認した。一方、テレビ・ラジオ・新聞などのマスメディア経由は約 5%、天文台発行のリーフレット等、紙媒体は約 7%となっており、これらには大きな変化は見られなかった。その中で「特になし」の回答が約 25%と高い割合であり、これについては、詳細な分析が必要と考えている。次に、資料 29 ページ「プラネタリウムのプログラム」について、「星空の時間」を観覧された方は 63.7%で、前年の 50%から大きく増加した。前年度はプラネタリウムリニューアルに伴う特別番組の投映がありこれに来館者が集中したが、今年度はそれがなく、投映回数の多さも影響し増加したと考えられる。同ページ下部の満足度集計では、プラネタリウムおよび望遠鏡の満足度は、前年同様 90%以上と変わらず高い水準を維持している。展示室については満足度が前年の 88%から 94.8%へと向上した。その理由が資料 31 ページの属性別集計「展示室のプログラム」の評価にあり、体験プログラムのうち、特に「ワークショップへの参加」の NPS スコアが 73.8 と前年の 55.6 から大きく向上したことから、ワークショップの充実が展示室の満足度向上に寄与したと推察される。次に、「望遠鏡のプログラム」の評価について、天体観望会の参加者の NPS は 62.5 で、前年の 44 から増加が見られました。参加回数や人数に大きな変化はなかったが、想定として、今年度は火星・木星・土星など、なじみ深い惑星を観望する機会が多かったことが、満足度向上の要因ではないかと考えられる。

次に、「プラネタリウムのプログラム」について、今年度は「天文の時間」及び「仙台のプラネタリウム史」といった専門的な番組が投映され、これらは他の番組と比べて NPS が高く出ており、これらを見るために天文分野に関心の高い方が多く来館し高く評価していただき、推奨度の向上につながったと考えられる。

次に、資料 32 ページでは総合的な評価をグラフで示している。2024 年度の総合評価として、推奨度に最も影響を与えた体験は「プラネタリウム」で、例年同様に来館者に高い期待を持ち、それに応えられたとい

う内容であった。その一方、推奨度を引き下げている体験は「施設までの交通アクセス」となっており、改善効果も出やすいと分析しており、今後何らかの対策実施が求められる。

報告は以上となる。

事務局 では、「施設利用者の入館状況」について説明する。資料 3-2 をご覧いただきたい。この表は、過去 5 年間の実入館者数の比較を表しており、上段が実入館者数の合計、中段が天文台学習に関する利用者数、下段が一般利用者数（全体から天文台学習分を除いた数）となっている。令和 6 年度の状況として、特に 5 月から 9 月にかけて特徴的な傾向が見られた。その中で 5 月は、前年比約 52% 減と大きく落ち込んでいる。この要因はあくまで推定だが、前年度 4 月にプラネタリウムのリニューアルがあったため市民の関心も高まり、5・6 月の来館者数が例年に比べて増加した経緯がある。一方、令和 6 年度は 4 月に仙台市博物館がリニューアルオープンとなり、5 月のゴールデンウィークの連休以降、通常より来館者が博物館の方に流れた可能性が考えられる。8 月以降も前年度を下回っているが、夏季の流星群の特別観察会、秋の「紫金山アトラス彗星」の特別観察会が中止となったことに加え、前年度の増加からの反動で減少したという影響が考えられる。10 月以降は前年並みとなり、令和 6 年度の合計は 144,949 人となり、前年度比約 12% 減という結果となっている。

天文台学習に関しては、月ごとの予約状況が異なるため月単位での単純な比較はできないが、令和 5 年度の 29,733 人から令和 6 年度は 26,839 人で約 10% の減少となっている。新型コロナ禍以降、市外の小中学校や幼稚園保育所の学習利用が減少傾向であり、断定はできないがこれが全体の利用者数に影響を与えているのでは、と考えている。下段の人数については、参考までにご確認いただきたい。併せて、資料 3-3 は過去 5 年間の利用者数の推移をグラフで示している。こちらも併せて確認願いたい。説明は以上となる。

会長 今の説明について、質問・意見はあるか。

飯野委員 天文台学習利用者の減少を危惧している。資料 39 ページでは市内の小学 4 年生の利用は 109 校と高いが、小学 6 年生になると 47 校に利用が激減している。4 年生と 6 年生では学習内容が異なり、6 年生では天文台での学習プログラムが「児童が主体的に考えるような構成」になっていることをしっかり周知する必要があるのでは。「小学 4 年生で天文台に行ったから、小学 6 年生では不要」といった認識を持たれていると思われ、これは非常にもったいないことである。天文台学習は単なる「施設見学で

はなく、学校の教室ではできない体験学習を提供しており、「しっかりした授業」ということを学校側に周知すると良いと思う。また、バス代も高騰しており、保護者の負担増などの事情から、天文台単体での校外学習を行うハードルが高くなっているという現状もある。そこで、他施設と併せて一日学習できるプランなどがあると、学校側も企画しやすくなると思う。近隣施設の情報も併せて学校へ提供できたりすれば、より効果的だと思う。

- 中尾委員 先ほどの説明で「来館動機」に通りがかりの方が多いという話があったが、天文台の周辺には秋保温泉などがあり、観光客の来館も多いのではと感じた。現在、観光客向けのPRや、インバウンド対応に関して、外国人の統計を取っているなど、施設としてどのような取り組みをしているのか教えてほしい。
- 大江副台長 観光客向けには、以前より市内のホテルなどに施設リーフレットやフリーペーパーの設置などの取り組みを行っている。外国人観光客については、増加傾向にあり、特に土曜夜はアジア圏からの個人客の来館が多く見られている。要因は分からないが、仙台空港への国際線就航などの影響の可能性がある。
- 小野寺台長 JRの車内誌「トランヴェール」にも、東北大学との連携企画で掲載を行ったこともある。
- 西山副会長 今年度の施設NPSスコアが上がったということは良いことだと思う。先ほどの展示室の成果に関してワークショップの開催がスコア上昇に貢献したとのことだが、「展示ツアー」と「ワークショップ」の違いは何か？
- 大江副台長 展示ツアーは、週1~2回程度、テーマを決めてそれに関して展示室内を案内する内容。一方、ワークショップは昨年度から力を入れており、「太陽の不思議にせまろう」「石の秘密にせまろう」「宇宙のぐるぐる見つけた」と題し、これらの企画を定期的に開催している（資料18ページ）が、これを評価した方が多くいたと考えている。
- 西山副会長 もう1点、資料34ページのイベント一覧の中で、多くの集客があったもの、「STAR&TRAIN」や「ほし×こえ」などについて、企画の経緯や背景について教えてほしい。
- 大江副台長 「STAR&TRAIN」は「描き鉄」と呼ばれる鉄道ファンの方が、天文台での企画を提案したことが始まりで、もう3~4年前のことになる。年々協力者が増えていき、現在は2日間で約800人が集まるイベントになった。最近はJRも連携し、近隣駅のポスター掲示なども行っている。「ほし×こえ」は、10年近く実施しており、人気声優がプラネタリウムで朗

読を行うイベントとして、声優ファンを中心に毎年参加者が多いイベントである。今年はないが、過去には人気アーティストによるイベント開催の実績もあり、これも多くの方が来館している。

中尾委員 これらは、天文台側からではなく、イベント主催者側からの依頼で開催しているということか。

大江副台長 そのとおり。主催者側から声がけがあり、天文台側が開催に協力しているという形である。

黒柳委員 インバウンド対応についてだが、天文台では多言語対応についてはどのように行っているのか。

大江副台長 インフォメーションにおいて、翻訳機能のあるタブレット2台を配備している。プラネタリウムでも、多言語対応の機能を搭載している。

黒柳委員 博物館の展示では、全文の翻訳は難しいが多言語説明用の二次元コードを配置しているケースもある。

大江副台長 参考とさせていただきます。

田村委員 先ほど、来館動機が「特になし」の方が多くいると聞いたが、この天文台も近くに温泉施設ができたり、子どもが遊べるスペースがある商業施設もある。そういった施設に来ている方を天文台に呼び込むような取り組みはしているのか。

大江副台長 ご指摘の温泉施設「そよぎの杜」とは、今コラボレーション企画を実施しており、利用者からも好評であったと聞いている。

岩間委員 利用者アンケートの結果、資料27ページの回答者の「居住地」について、地元の青葉区錦ヶ丘が2.2%しかいない状況であった。施設の活性化のため、地区外からどうやって来館者を呼び込むかということ考えたとき、市内中心部に「こどもの遊び場」や「音楽ホール」といった施設が整備予定であり、よほど何か大きなキャンペーンをやらないと、人はなかなか来てくれないのではないか。そこで、ある特定の層を狙ったキャンペーンなどを企画できたりするのか、その際に施設の地元の方を対象としたことは考えているのか。

大江副台長 特にキャンペーンを行うということは考えていないが、公的施設であるので、小中学校など学校に対してのアプローチはしやすい環境である。だが、学校側の事情や制約もあり具体的なキャンペーンはできていないが、実施できれば効果はあると考えている。

小野寺台長 錦ヶ丘地区に関する取り組みとしては、地区のイベントへの参加や天文台まつりの際に地元中学校の吹奏楽部の演奏などをしていただいている。また、地元の方のアンケートの数が少ないのは、地元ゆえに来館頻

度が高く常連の方も多くおられるため、あまりアンケートには興味がなく、ご協力いただけていないのかもしれない。

岩間委員 地元への情報発信ということでは、自分たちの NPO 団体も設立当初は地元からは部外者扱いで何も連携できなかったが、活動により存在感を高めて地元での認知度を上げることで、地元の方からイベント実施などに協力の声かけをされるようになったりした。多少時間はかかるかもしれないが、アプローチや活動のアピールを行うことで、「天文台だったら協力してもよい」という心象を持つ方も出てきて、成果がでてくるのではないか。

湯蓋委員 学校の全校配布について、現状を考えると紙ベースでは難しいが、現在学校連絡用にはイベント情報などは LINE 等のアプリを使用しているところも多い。配布経費も掛からず、イベント情報等の配布を依頼するということが効果があるのではないか。

事務局 天文台が発行している「ソラリスト」については、市所管課発行の都度、市職員向けの庁内システムの掲示板への掲載、仙台市立の小・中学校で採用している連絡用アプリ「まなびポケット」での配信についても、一定の制限はあるが各学校に保護者への配信をお願いする形で実施しているところである。

会長 「ソラリスト」について、地下鉄構内にあるチラシ配布コーナーに配置するなど、もっと広範囲に配架することはできないのか。

大江副台長 以前は地下鉄駅構内に配架していたこともあるが、世の中の電子化により、紙媒体設置を受け入れてくれるところも少なくなってきており、紙媒体を広範囲に配置、ということはなかなか難しい状況である。

会長 その他に意見等はあるか。

各委員 特になし。

会長 他になければ、以上で報告事項（2）は終了とする。

（3）仙台市天文台中期計画の評価報告（2024 年度）

事務局 本件については、天文台運営事業者より説明する。

大江副台長 資料 4「2024 年度中期計画の評価報告」をご覧ください。
資料後半の「テーブル 4 アウトカム評価」「テーブル 5 クロス集計表」から、評価結果を報告する。本中期計画 2 年目の評価となる。なお、「テーブル 4 の「2023 年度の成果」は、「2024 年度の成果」の記載は誤りであり、修正をお願いします。結果について、「最終アウトカム」を「宇宙が身近な社会 市民の天文学リテラシーの向上」を目指しての活動ということで、中間アウトカム（A～E）で各評価を行ってきた。ま

ず「A1」について、アンケート結果を見たところ成果が出たとは認められなかった。テーブル5のクロス集計表に示しているとおりに、「特に興味がない」方には成果が上がらなかった。「A2」については、「ソラリスト」に関してだが、こちらも成果が上がったとは言えなかった。「B」については「少し興味があった」市民については、少し興味が高まったとの結果となり成果があったと認められた。「C」について、「C1」は評価が難しく、資料2ページの「テーブル7」に記載しているが、結果分析でも天文台活動との因果関係がよくわからず、指標の再検討が必要と考えている。「C2」については、やや興味が高まったとの度合いが示され、成果があったと考えている。「D」については、「D1」「D2」とも、アンケート結果及び市民活動件数から、目標達成と判断した。「E」についても、活動件数から、目標達成と判断した。

報告は以上となる。

会長 今の説明について、質問・意見はあるか。
事務局 この議題に関して、湯蓋委員より事前に質問をいただいていたので、内容を紹介のうえ、確認・回答する。

(質問内容) PTA および市民の立場から資料を拝見し、非常に多岐にわたるイベントやプログラムが実施されていることを知った。その上で、率直に「これだけ活動しているのに、なぜ天文台が身近に感じられていないのか」という思いがある。という内容である。

大江副台長 この点については、先ほどのアウトカム評価の市民A「身近な出来事に科学・宇宙との関わりを感じる市民の増加」が達成できなかった理由を詳しく調べた。「来館前に特に興味がなかった」と回答し、来館後も「興味・関心が変わらなかった」と回答した14名のうち7名が、プラネタリウムのみ観覧後、すぐに帰られていた。この方々は、望遠鏡や展示室などの観覧・体験がなかったため、より深い関心を持てる機会を得られなかった可能性があると考えており、今後の対応に留意したい。

飯野委員 昨年度の会議で、「望遠鏡を見ていただくことで興味・関心が高まると考えている」という発言があったと記憶しているが、プラネタリウム観覧後、来館者を望遠鏡案内に誘導する工夫などは行っているのか。

大江副台長 昨年度から、3階にある望遠鏡室まで誘導するために「ただいま星が見えています」という内容の館内アナウンスを行う取り組みを引き続き実施しているが、これにより望遠鏡利用者が増加につながったという明確な成果はない。プラネタリウム観覧後、約7割はそのまま退館しているというデータもあり、新たな有効なアイデアがないか、現在も検討中である。

- 黒柳委員 天文台のひとみ望遠鏡は「日本最大級」である、とはアナウンスで言っていないのか？
- 大江副台長 その内容は言っていなかった。今後検討したい。
- 会長 昨年 2024 年度は、彗星の接近や土星食などの天体現象があったと思ったが、そういった天文現象に合わせた観望会などは開催したのか。
- 大江副台長 天文現象に合わせた観望会はいくつか企画したが、対象の天体自体の変化や天候などにより、想定どおりに開催できなかったケースが多かったと考えている。
- 会長 開催や広報がうまくやれば集客が増えたのではないか。そういった結果になったのは残念である。
- 西海枝委員 館内を回遊するツアー形式の案内があると良いのではないか。例えば午前と午後に 1 回ずつ、展示室・望遠鏡も含めた館内全域を案内するツアーを設定し、それに合わせて事業を展開してもらおう。スタッフや市民サポーターが案内するが、館内の説明だけでなく子どもたちなど参加者が興味を示した内容・要望に応じた体験を提供し、かつ館内を全て巡るような形にすれば、必然的に満足度も高まるのではないか。自由に見学させれば落ち着きのない子供たちも、説明員が付くと話を聞いてくれる。こういった案内ツアーに人気が出れば、参加するために開催時間を調整してまできてくれるようになるのではないか。
- 岩間委員 自分の商業施設で回遊性を議論するときには、「心のハードルを下げ、きっかけを提供する」ということを意識している。よくやるのは「スタンプラリー」。粗品目当てで参加した方が、回ってみたら「意外と面白い」と感じてくれる方も多い。今回の場合、「必ず 3 階へ行くように促す」という仕掛けをする。例えば博物館の企画展などでマイクを使用して「次の展示は 2 階の〇〇です」などと呼びかければ、参加者は自然とそちらに行ってくれる。こういった仕掛けなどはどうか。
- 大江副台長 お二方の貴重なご意見、参考にさせていただく。
- 会長 他に意見はあるか。
- 各委員 (特になし)
- 会長 意見がなければ、以上で報告事項(3)は終了とする。

(4) 令和 7 年度(2025 年度)天文台事業計画について

- 事務局 本件については、天文台運営事業者より説明する。
- 大江副台長 資料 5 「2025 年度事業計画書」をご覧いただきたい。これもいくつかポイントを絞って説明する。まず、3 ページ「マネジメント業務」について、2025 年度は 11 月 17 日～19 日に「全国プラネタリウム研修会」を

開催予定としている。全国から約 100 名程度の参加が見込まれており、天文台での学習活動を議題とする。全国的に幼稚園や小・中学校での学習利用者は減少しており、その原因を探るとともに参加者のスキル向上を目指していく内容を予定している。次に、4 ページ「活用促進業務」について、多様化するニーズへの対応として、受付やプラネタリウムでの多言語対応を強化する。最近の外国人来館者の増加に伴い、デジタル機器等のテクノロジーも活用し、外国人来館者とのコミュニケーションの強化を図る予定である。また、施設活用イベントも、計画書記載のもの以外にも、外部からの働きかけがあれば、関連企画として柔軟に対応していく方針。実績報告で取り上げた温泉施設「そよぎの杜」とのコラボイベントも、当初計画書では記載はなかったものである。6 ページの「観測・研究業務」は記載のとおり。

次に、10 ページ「学校教育業務」について、今年度も学校等関係団体の受け入れを中心に展開していくが、幼児・小学生向けは利用者数が新型コロナウイルス禍以降減少傾向にあるため、利用促進に関する対応策を検討しているところである。次に、12 ページ「生涯学習支援業務」は記載のとおり。15 ページ「天文普及業務」については、ワークショップは利用者満足度向上の効果が高いため、15～16 ページに記載の各メニューをベースに、事業実施を強化していく。16 ページの「企画展示」の「(仮) 重力波とブラックホール」は、台湾から巡回してきた展示物を使用しており、展示室にてミニ企画展として昨日から開催している。

次に、18 ページ「プラネタリウム運営業務」について、本施設は天文ファンが多く訪れる施設であり、それに応えるための専門性の高いコンテンツを用意する。②にある「地動説－惑星の運行から考える宇宙の姿」はすでに実施し評判がよく、多くの方にご覧いただいている。その一方で、天文に馴染みが薄い市民向けとして、天文に親しみやすい番組も企画しており、『ゆるキャン△』というアニメのキャラクターが登場する番組を 8 月から投映する予定としている。

次に、「望遠鏡業務」については資料 21 ページ、皆既月食の特別観察会を 2026 年 3 月 3 日に開催予定としている。次に、「アウトリーチ活動」については資料 23 ページ、リニューアルを行った移動天文車を活用し、年間 60 回程度、出張観望会を実施予定。記載は一部で、その他にも依頼に基づいて人が多く集まる会場を中心に移動天文車を派遣し、より多くの方々に天体観察の機会の提供を行う。

次に、「大学・教育機関連携業務」については資料 25 ページ。こちら

は例年どおり、東北大学、宮城教育大学、市野草園との連携行事を、引き続き実施していきたいと考えている。資料 27 ページ、「天文情報提供業務」やその後の「広報業務」については、主として SNS を活用した天文情報の発信強化を考えているところである。

次に、管理業務については資料 34 ページ、現在キャッシュレス化の対応を進めており、これに関連する業務を行っていく見込みである。

説明は以上となる。

会長 今の説明内容について、質問等はあるか。

事務局 本議題に関しては、黒柳委員より事前質問をいただいている。

(質問内容)「昨年からの委員意見に関する対応状況を見て、天文台からの SNS 発信は慎重な対応が必要だが、来館者からの SNS 投稿を後押しするような取り組みは、有効ではないか。そのうえで、プラネタリウム画像に関する SNS での反響について教えてほしい。」「天文台館内で月替わりや季節ごとなどでスタッフがお勧めする撮影スポットの紹介など予定はあるのか。混雑する懸念等はあるが、家族や友人などとの来館であれば、撮影できるスポットがあれば嬉しいのではないか。」という内容である。

大江副台長 SNS 投稿に関する企画（ワークショップ）の反響については、投映実施回数は 11 回・入場者数は 166 名だったが、SNS への投稿が確認された件数は 3 件と少なく、想定した効果は得られなかった。2 つ目の館内へのフォトスポットの設置については、検討したいと考えている。

山口委員 来年 3 月の皆既月食観察会について、「皆既月食をみよう!!」というタイトルだが、「スマホで撮ろう!!」という企画をすれば、ぜひ参加したいと思うのでは。スマホで綺麗に月食を撮影できれば、綺麗に撮れた画像を SNS に投稿したりするなどで、多くの市民が更に興味を持つのではないか。自分で撮影しようと思ってもなかなかうまく行かず、うまく撮れる方法があれば教えてほしいと思っている。過去の月食の日は、多くの方が SNS に月食の画像が多く挙げていたが、上手に撮れている画像はほとんどなかったため、そのような要望を満たせば、多くの方が来館し満足度も高まるのではないか。

大江副台長 先ほどのプラネタリウムの企画でも感じたが、来館者各自が違った機種 of スマホを持っているため、まずレクチャーに時間がかかってしまう。一人ずつ対応するのは大変で、手間も取られる。予め有効な方法を案内しておくという方法はあるかもしれない。

会長 皆既月食や日食のようなイベントは多くの方々が興味・関心をもつので、今後も集客につながるような企画を検討いただけると有難い。

- 岩間委員 4月の新移動天文車のお披露目の場に参加した。内容は非常に良かったが、参加者が少なかった。もっと多くの人に知ってもらえればと思う。近隣の小学校や住民に周知するだけでも、参加者がもっと増えたのではないか。
- 事務局 4月25日開催の新移動天文車のお披露目イベントには、約90名の参加があった。イベント周知については、効果的な方法を検討してまいりたい。
- 黒柳委員 「宇宙人と写真を撮ろう」というスポットがあり、来館した親子が楽しそうに写真をとっていたので、そうしたスポットがあるのは良いと思った。
- 山口委員 日本科学未来館でアニメ「チ。」との連携企画が多くの人で賑わっていたと聞いた。そのような人気アニメの撮影ボードが3階にあたりすれば、来館者が自然と足を運ぶきっかけになるのではないか。また、「観測・研究業務」に記載のあった「インターネット望遠鏡体験会」や「市民観測員観測」については、市民や中学校・高等学校の関係者でも、その存在を知らない方が多いと思う。どのような周知を行っているのか。この取り組みを知っていたら、事業を利用したいと考える人も多いのではないか。
- 大江副台長 「インターネット望遠鏡体験会」については、仙台市立の小・中学校及び高等学校向けには案内しているが、その他学校などには周知していない状況である。インターネット望遠鏡体験会は、錦ヶ丘地区への移転・再開館当初の時期に、仙台市立学校向けとして、大型望遠鏡の技術を体験してもらうことを目的として作られた事業であるが、日程的・技術的な都合上、一年度1校のみという制限もあり、広く案内はしていなかった。今後、現在の実情に合わせて、事業のあり方を更に検討していきたいと考えている。
- 湯蓋委員 事業計画書に予算について明記がなかったが、例えば他施設でやっているネーミングライツの導入等はやらないのか。例えば導入した場合、それで得られた資金で来館した子どもたちへのキャラクター等のグッズの配布などに充てたり、PRに活用できるのではないか。また、先ほどアニメ等とのコラボレーションの話が出たが、一つが終わってしまうのであれば、費用的に掛かるかもしれないが、新たな人気コンテンツとコラボ企画によって施設名をもっとPRするということにつながるのではないか。当施設のキャラクター「プラネくん」もかわいいので、もっとグッズがあると良いとも思った。

事務局 本天文台運営に係る予算はPFI契約に基づき市が予算を確保し、運営事業者である(株)仙台天文サービスに委託している。事業計画等に基づく予算となっており、新たな事業展開及び予算増額は、昨今の事情もあり厳しい状況である。事業者側の予算で関連事業を実施するということはあるが、人気コンテンツとのコラボなどは、大規模な予算が必要であり、いずれにしてもなかなか実現は難しいと考えている。ネーミングライツについては、天文台は制度上の制約のため現時点では導入が難しいが、制度変更等、状況の変化等活用できる可能性がでてくれば、ぜひ検討したいと考えている。

大江副台長 人気コンテンツ等とのコラボなどの企画展については、当方でも全国的な社会情勢を注視し、検討している。ただし、人気であればあるほど、ロイヤリティ等の高額の予算確保が必要であり、現状として実施計画を立てることもなかなか難しい状況である。施設キャラクターグッズ展開についても同様であり、事業の採算を見ながら考えていきたい。

飯野委員 仙台を舞台とした人気アニメがあり、その登場人物が施設に就職するという設定となっていたため、該当施設がフォトスポットを設置しただけで、そのことが話題になり、企画展などを実施したわけでもなく、それ目当てに入館者が増えたという例もある。

中尾委員 施設側からアプローチを行うために費用がどうしても掛かってしまうので、アニメ・映画等の製作者側から施設を題材にしたい等のアプローチが行われるようにすればよい。例えば、「せんだい・宮城フィルムコミッション」に天文台を撮影可能場所として紹介するため登録しておく、そういったアプローチがある可能性も高まると思う。

会長 他に意見はあるか。

各委員 (特になし)

会長 意見がなければ、以上で報告事項(4)は終了とする。

(5) 本協議会での意見に対する対応について

事務局 資料6をご覧いただきたい。昨年度の協議会において各委員からの意見への対応状況についてまとめている。資料を確認のうえ、追加で意見があれば、発言をいただきたい。なお、黒柳委員より事前質問をいただいている。

(質問内容) 昨年度と比較して、天文台へのバス便の増減の状況、及び今後の予定について、また来館者数との関連性、特に顕著なものはあるのか、という内容である。

大江副台長 現在のところ、昨年度と比べてバスの便数や運行状況について、特段の変化はない。ただ、バス増便や天文台への乗り入れに関する要望は、施設側からも折に触れてバス運行会社に対して働きかけを続けているが、バス会社側からは「当面は対応困難」との回答を受けている。

また、現在のところバスの便数と来館者数との間に明確な相関関係は確認されていないが、NPS 調査において、「交通アクセスの不便さ」が推奨度にマイナスの影響を与えていることは判明している。なお、今年度から、交通アクセスに関する不満に関して、具体的な内容を深掘り調査しており、当該不満を持っている方のうち約半数の回答者が、「バスの運行本数が少ない」「施設の最寄駅（JR 愛子駅）からの交通アクセス手段がない」と答えていることも判明してきている。

黒柳委員 回答について承知した。バスの減便はないとの点は安心した。

西海枝委員 昨年度質問項目の 6 番、中学校の天文台学習に関する改訂について、寄せられた担当教諭や生徒の反応など、その結果でどのようなものがあったか教えてほしい。

大江副台長 昨年度アンケートの意見では、「以前の学習内容の方が良かった」という内容が一部にあった。現在（改訂後）のプログラムは、学習指導要領に沿った「主体的・対話的で深い学び」を重視した内容となっているが、以前は「宇宙の広がり」など天文・宇宙に対して興味・関心を引きやすい、応用的な内容が多く含まれていた。これらの意見を受けて改定前の内容に戻すことはしないが、今年度も同様に、引き続き学校の先生方など関係者の方の意見を参考に、よりよい改善につながる点等について、今後も検証していきたい。

湯蓋委員 今年度、仙台市科学館が一部リニューアルされ、注目度や集客力が高まっている状況であり、こういった「旬な施設」と連携することも必要ではと思う。2030 年頃には、市内中心部に市が「子どもの遊び場」の施設をつくる計画もあり、そういった施設に客足を取られないよう、天文台が遊べて天文の学習もできる施設として今から PR し、こちらまで足を運んでもらえるようにした方が良いと思う。対策ができない理由を並べて何もしないのでは、せっかく良い施設であるのもったいない。子供たちの成長は早く、あっという間に大きくなってしまうので、その間に 1 回でも多く天文台に来てもらえるように、何か対策を講じてほしい。

事務局 現在、科学館はリニューアルにより多くの方が訪れているが、距離などもあり物理的な連携策は難しい面があるが、科学館の来館者層はファミリー層も多く、天文台と共通している点がある。ファミリー層は、どちらかといえば車での移動が多いため、交通アクセス面での大きな支障は

ないと考えており、更に、天文台と科学館は同じ自然科学系の施設であるので、双方をつなげるコンテンツ面での連携や、コラボ企画などを検討し、相互に来館を促すような仕組みづくりができればと考えている。

会長 他に意見はあるか。

各委員 (特になし)

会長 意見がなければ、以上で報告事項(5)は終了とする。

○その他

事務局 1点連絡する。各委員におかれては、今後天文台をご視察いただく際、天文台の自主事業を除く展示室・プラネタリウム・天体観望会については、委員本人に限り無料で利用可能である。機会があれば、ぜひ現地で事業を確認のうえ、意見を頂戴できれば幸いである。

なお、本日の配布資料のうち、「研究紀要」および「ソラリスト」は、後日各自でご確認いただきたい。連絡は以上である。

会長 他に何かあるか。

各委員 (特になし)

会長 何も無ければ、本日の議事を終了とする。円滑な議事進行への協力、及び多く意見をいただき感謝する。

○閉会

事務局 以上で、令和7年度第1回天文台運営協議会を閉会する。

令和8年3月30日

会長

秋山 正幸

議事録署名人

岩間 友希
